様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 １８ 日現在

機関番号：３２６４４
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３５３００１９

研究課題名（和文）航空管制における協同と責任の法社会学－ビデオ・エスノグラフィーによる質的研究

研究課題名（英文）Law & Society studies in collaboration and responsibility: qualitative studies using video-ethnography

研究代表者
北村　隆憲（Kitamura, Takanori）

東海大学・法学部・教授

研究者番号：００２３４２７９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　3,700,000円、（間接経費）　1,110,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、社会学のエスノメソドロジーと会話分析に依拠したビデオエスのグラフィーの手法によって、法的責任と協同とが伴う制度的相互行為を研究するものである。そこには様々な法制度的な場面における相互行為が含まれるが、航空管制の現場における管制官の相互行為も規範的な制約の中で協同的で複雑な相互行為が営まれる場面であり、その研究対象の一つである。本研究の焦点は、こうした法的・規範的な協同や責任が問題となる制度的場面において、どのように相互行為のメカニズムが協同的に規範的な場面を組み立てているか、そのメカニズムを詳細に分析して法制度の特徴を相互行為論的に描き出そうとするものである。

研究成果の概要（英文）：This study, using "video-ethnography" informed by ethnomethodology/conversation analysis approach, investigates institutional interactions that involve normative collaboration and responsibility. Such interactions include various social interactions such as lawyer-client interviews, police interrogations, lawyer's examination in the court of law and so as well as the setting of air traffic control. The focus of our study is how these normative settings are constructed collaboratively by participants, and what kind of mechanisms are operative in those settings, thereby elucidate some important interactional features of legality.

研究分野：法学

科研費の分科・細目：法学・基礎法学

キーワード：法社会学　ビデオ・エスノグラフィー　エスノメソドロジー　会話分析　航空管制　制度的相互行為　法的相互行為

１．研究開始当初の背景

本研究は、法的・規範的な制度場面における、相互行為を実際に研究する研究例が我が国では数少ないことに端を発している。法社会学におけるこうしたトピックの研究は、従来、マクロな視点から、統計学的方法や歴史的手法を用いて行うものが多かったが、法的・規範的場面における、実際の相互行為やコミュニケーションを直接分析して、相互行為がどのように組み立てられているかそのメカニズムを研究するものは殆どなかった。そこから、人々の相互行為を探求する方法論である、エスノメソドロジー・会話分析の方法を使って、こうした相互行為を直接に分析して、その捉えにくいメカニズムを解明することにより、規範や法という重要な社会的メカニズムの特徴を知るために開始された。

２．研究の目的

以上のような背景から、本研究は社会学のエスノメソドロジーと会話分析に依拠したビデオエスのグラフィーの手法によって、法的責任と協同とが伴う制度的相互行為を研究することが目的であった。そこには様々な法制度的な場面における相互行為が含まれるが、航空管制の現場における管制官の相互行為も規範的な制約の中で協同的で複雑な相互行為が営まれる場面であり、その研究対象の一つである。本研究の焦点は、こうした法的・規範的な協同や責任が問題となる制度的場面において、どのように相互行為のメカニズムが協同的に規範的な場面を組み立てているか、そのメカニズムを詳細に分析して法制度の特徴を相互行為論的に描き出そうとするものである。

３．研究の方法

本研究の研究方法は、社会学のエスノメソドロジーと会話分析に依拠したビデオエスノグラフィーである。このアプローチは、実際の相互行為が自然に生じている日常的場面や制度的場面の相互行為を録音録画して、そこから、専門的記号も使って、詳細なトランスクリプトを作成して、相互行為の組み立てられ方を、行為の連鎖や、全体構造、行為の位置、行為のデザイン、相互行為の中で用いられるカテゴリー、などに着目することで、相互行為の組み立てとメカニズムとを分析できる方法である。

４．研究成果

（１）航空管制場面を始めとして、様々な規範的・法的制度場面における相互行為を、会話分析に基づくビデオ・エスノグラフィーの方法によって分析して、雑誌論文６件、学会報告１４件の、成果を収めた。

（２）まず、航空管制場面においては、航空管制官の行う管制業務は、レーダーマン、副官、スーパーバイザー、航空機パイロット、（模擬訓練の場合には教官、などがマルチモーダルな形式で、多数参与者コミュニケーションを行っている現場である。そこでは、発話のみではなく、指差しや視線などの非言語的なモードによるコミュニケーションが重要な役割を演じており、管制の技術的・法的制約の内部で、実践的な協同に基づいて、業務の焦点化や協同の集中や志向を相互にやりとりしながら、業務を遂行していることが分析された。

（３）また、裁判員裁判の評議場面という制度的な文脈では、裁判員は日常的な推論を用いながらも、自分たちが法的な枠内にいることを協同で構築して、その場面とアイデンティティが相互構築的に「法的」評議の現実性を作り出していることが理解された。また、裁判員は、評議のコントロールと非コントロールの必要性というジレンマの中で、裁判員の次に発言するという相互行為上のリソースを使って、そのジレンマに対処をしていた。

（４）また、法廷尋問では、弁護士のマニュアルに書かれている「誘導尋問」の実践に対して、模擬刑事裁判において、弁護士役の学習者の法科大学院生たちは、誘導尋問に対して非整合的な返答が産出される場合には、その対処に困難を生じさせていた。しかし、まれに見られる対処行動の中に、マニュアルには示されていない相互行為上の技法が現れており、したがって、弁護士養成のためにも、弁護士活動（模擬も含む）の詳細な相互行為データに基づく研究と実践の有効性が示唆された。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　６　件）

①Fukaya, Yasuko & Kitamura, Takanori. (2013). "Status of Capability ADL and Performance ADL (ADL Gap) in Community Elderly with Disabilities and Development of ADL Gap Self-Efficacy Scale ", Jean Baptiste Giroux and Charlotte, eds., ValleeActivities of Daily Living: Performance, Impact on Life Quality and Assistance, Nova Science:New York, pp. 97-118.（査読有り）

②北村隆憲(2013)、弁護士のアドバイスへの依頼者の拒否と抵抗」の可視化―　臨床法学教育における「即時分析」から」、臨床法学教育学会編『法曹養成と臨床教育』、No.6, pp.167-171（査読なし）

③北村隆憲（2013）「法の相互行為分析と法実践」質的心理学フォーラム（Vo..5, pp. 86-88）（査読有り）

④北村隆憲（2012）誘導尋問に対する証人の「はい/いいえ」を超える返答の帰結」、臨床法学教育学会編『法曹養成と臨床教育』、No.５、2012 年、pp.150-155.（査

読なし）
⑤北村隆憲（2012）反対尋問のビデオ・エスノグラフィー―弾劾と防御の方策とコミュニケーショントラブル、鹿児島大学法学論集、４７巻２号、２０１３年３月、239－269 頁。（査読なし）
⑥北村隆憲（2012)非西欧法の人類学へ―或る軌跡、東海法学　４５号、1-22 ページ、（査読なし）

〔学会発表〕（計　１４件）
① 北村隆憲(2013)、法学臨床教育におけるビデオデータの即時分析－弁護士のアドバイスへの依頼者の拒否と抵抗」　臨床法学教育学会　第６回年次大会，立命館大学・朱雀キャンパス，２０１３年４月２１日。
② Takanori Kitamura (2013) "The use of 'next' positions by professional judges as an interactional resource: a video analysis of a mock deliberation under Lay Judge System in Japan", 2013 IIEMCA Conference, Wilfrid Laurier University, Waterloo, Canada, August 5-8.
③ 北村隆憲（2013)「相互行為における『法的アクセス』－会話分析から見た法的ディスコース」, 第 7 回司法アクセス学会学術大会　司法アクセスと言葉―本人訴訟の視点から」（テーマⅡ「ことば」の障壁を探る), 弁護士会館, 2013 年 12 月 7 日。
④ M. Yamanoi, Y. Fukaya, T. Kitamura（2013）. Mechanism of Type 1 and Type2 communication between caregivers and patients in geriatric facilities in Japan, Lisbon International Nursing Conference. (Oral session), Escola Superior de Enfermagem Lisboa, June 16, 2013.
⑤ Yasuko, Fukaya. Takanori, Kitamura. Sachiyo, Koyama. (2013). Analysis of Elderly Utterances and Their Conversational Freedom in Type Ⅱ Communication with Caregivers in Japan, Lisbon International Nursing Conference (Oral session), Escola Superior de Enfermagem Lisboa, June 16, 2013.
⑥ 北村隆憲(2012),模擬裁判の反対尋問における「非同調的返答」－ビデオデータによる分析」、テーマ部会 4 「臨床教育のビデオエスノグラフィー－高等教育における臨床教育場面の経験的比較研究－」、オーガナイザー・司会：米田憲市（鹿児島大学）臨床法学教育学会　第５回年次大会（２０１２年４月２２日、青山学院大学）
⑦ 真鍋陸太郎、北村隆憲(2012)，航空管制研修におけるレーダー画面の機能に関する研究、日本社会学会、2012 年 11 月 4 日、札幌学院大学。
⑧ Takanori Kitamura(2012), ”An Interactional analysis of legal comsultations between lawyers and clients in Japan”, Session 1413 ‘Oral Communication in Legal Settings, 2012 International Conference on Law & Society, Honolulu, Hawaii, the United States, June 5-8, 2012, Hilton Hawaiian Village
⑨ 北村隆憲・樫田美雄・米田憲市、「法科大学院教育における反対尋問のビデオ分析－「はい/いいえ」を超える返答によるトラブルとその帰結」（第８５回日本社会学会テーマセッション B「高等教育および専門職養成研修（実地訓練）場面の研究におけるビデオデータの活用」（テーマセッション（８)）、樫田美雄司会）２０１２年１１月４日、札幌学院大学）
⑩ 北村隆憲 (2012)、相互行為上の資源としての「次の」発話位置における裁判官の発言－模擬評議場面のミクロ分析、第 4 回法と言語学会学術大会、明治大学駿河台キャンパス、12 月 15 日（土).
⑪ Takanori Kitamura (2013), A micro-analysis of a mock deliberation under the Lay Judge System in Japan: The use of “next” positions by professional judges as an interactional resource", Delivered at the Third East Asian Law & Society Conference KoGuan Law School, Shanghai Jiao Tong University, March 2013.
⑫ 北村隆憲(2011)，制度的コンサルテーションの相互行為分析ー法律相談と医療面接」、ミニシンポジウム「法のエスノメソドロジー研究の新展開」（コーディネータ：樫村志郎）２０１１年度日本法社会学会学術大会、東京大学、２０１１年５月７日（土)。
⑬ Kitamura, T, Fukaya Y, Koyama S, Kimura Y & Nakatugawa J)"Change in speaking time of elderly people who require facility care when social communication from staff is increased", USM International Nursing Conference 2011, Kota Bharu, Malaysia, June 2011, 14-15th.
⑭ 北村隆憲(2011),法専門職の相互行為知識と評議における知識系・アイデンティティ: ビデオデータによる反対尋問と陪審評議の分析を素材に、エスノメソドロジー・会話分析研究会　春の例会（日本法社会学会後援)、２０１２年３月３１日、明治学院大学。

〔図書〕（計　0　件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
http://www.scn-net.ne.jp/~soramame/index.html

６．研究組織

(1)研究代表者

北村　隆憲（KITAMURA, Takanori）
東海大学・法学部・教授
研究者番号：00234279

(2)研究分担者

樫田　美雄（KASHIDA, Yoshio）
徳島大学・大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部・准教授
研究者番号： 10282295

五十嵐　素子　(IGARASHI, Motoko)
上越教育大学・学校教育研究科（研究院）
研究者番号：70413292

真鍋　陸太郎　(MANABE, Rikutro)
東京大学・工学系・研究科（研究院）
研究者番号: 30302780

(3)連携研究者

(　　)

研究者番号：